

悪石島ボゼ祭りツアー

8/24～8/26 開催（ボゼ祭り・8/25）

平成22年度 特定離島ふるさとおこし
推進事業（観光物産対策）



△ボゼ祭りでのひとこま

もうクマゼミの鳴き声はなく、止め処なくクロイワツクツクが鳴いていた。

盆の15日夕、ボゼツアーの観光ルート
の最終確認のため、御岳山頂に上った。海上を行き交う積乱雲が所々でさだち（夕立）となり、島の端を掠め、その頂部で鮮やかに虹を飾った。山頂は、時々霧がかかるも

この地が地球の一部であることをあらためて実感した。

旧暦16日、定期船が着くと悪石島の人口は、2倍以上になった。大きな雷鳴が轟いた。いよいよ、「ボゼ」が現れるのだ。

盆の踊りは、午後3時からテラ（集落墓地）で始まった。浴衣姿の

晴れると、南西に小宝島や宝島が見え、その左に横当島や上根島をみた。北側の間近には諏訪之瀬島が大きく横たわり、その右端には中之島が重なり、平島、臥蛇島、小臥蛇島をみた。遠くの水平線には、外国航路のコンテナ船らしきマスト部がみえ、こ

テラ地の小さな空にも、怪しげな雲を見ることができた。案の定、ポツポツとしてきた。ちょうど帰省した十九の若者は、兄よりも早く、大役をこなすことになった。父やおじたちが、そのように装着していく。おじたちに指図され、十五の少年は、小さなピロウ葉をみつろう。雨粒がピロウ葉に落ちる。

ボゼ出現の合図に合わせるように雨は上がった。二方向から三体現れたボゼは、さだちの滴で体色が溶け、触れられた人たちは、顔に服にと赤土を付けられる。幼児の泣き声や女性たちの悲鳴が太鼓のリズムをかき消した。しばらくして、ボゼは、もう一体現れた。四つの子は、近くの若者のシャツを掴み、その後に泣き叫びながら隠れ続けた。

ボゼが去ると、彼は役目を終え、その代わりのように、クロイワツクツクの鳴き声が集落内に響き始めた。静かな黄昏になった。